

### 論考

#### 特集 女が書く、女を書く—文学の中の在日朝鮮人女性

##### 序

—何が書かれるのか、何を書こうとするのか

伊地知紀子

在日朝鮮人女性はどう描かれてきたか：

1970年代以前の在日男性作家による女性表象

宋恵媛

戦後を生きる「オモニ」

鄭鎬碩

金史良の日本語作品に描かれた朝鮮人女性

高橋梓

日本文学にあらわれた「不逞鮮人」と朝鮮人女性

—中西伊之助「不逞鮮人」と田宮虎彦「朝鮮タリヤ」を手がかりに—

原佑介

### 投稿論文

1970-80年代日本の市民運動史における映画『江戸時代の朝鮮通信使』と上映運動

山口祐香

1930年代における阿部知二の朝鮮認識と文学的抵抗——「冬の宿」をめぐる

廣瀬陽一

### 研究ノート

八尾の朝鮮人の生活とできごと—1945年以前を中心として

鄭榮鎮

在日コリアンにおける「民族舞踊」の継承とその意義

—朝鮮学校の民族舞踊部指導者へのインタビューから—

徐希寧

### 寄稿

日韓わだかまりの淵源

—大韓民国の正統性から問い直す—

徐正根

### キルチャビ

日本の「韓国学」、人文・社会科学分野の研究と教育の動向

—国際高麗学会日本支部と関西地域の大学を中心に—

裴光雄

許南麒と七冊の日本語詩集

任正熾

### 書評

金学鉄著・大村益夫編訳『たばこスープ』（金学鉄文学選集1—金学鉄短篇小説選）

宮島美花

木宮正史『日韓関係史』

朴一

李里花編著『朝鮮籍とは何か——トランスナショナルな視点から』

李洪章

許玉汝『羽が生えたように』

金正守

橋本みゆき編著、猿橋順子／高正子／柳蓮淑著

『二世に聴く在日コリアンの生活文化—「継承」の語り』

伊地知紀子

論考

特集 女が書く、女を書く—文学の中の在日朝鮮人女性

序

—何が書かれるのか、何を書こうとするのか	伊地知紀子	1
在日朝鮮人女性はどう描かれてきたか：		
1970年代以前の在日男性作家による女性表象	宋恵媛	4
戦後を生きる「オモニ」	鄭鎬碩	14
金史良の日本語作品に描かれた朝鮮人女性	高橋梓	26
日本文学にあらわれた「不逞鮮人」と朝鮮人女性		
—中西伊之助「不逞鮮人」と田宮虎彦「朝鮮ダリヤ」を手がかりに—	原佑介	40

投稿論文

1970-80年代日本の市民運動史における映画『江戸時代の朝鮮通信使』と上映運動	山口祐香	53
1930年代における阿部知二の朝鮮認識と文学的抵抗——「冬の宿」をめぐって	廣瀬陽一	66

研究ノート

八尾の朝鮮人の生活とできごと—1945年以前を中心として	鄭榮鎮	79
在日コリアンにおける「民族舞踊」の継承とその意義		
—朝鮮学校の民族舞踊部指導者へのインタビューから—	徐希寧	89

寄稿

日韓わだかまりの淵源		
—大韓民国の正統性から問い直す—	徐正根	101

キルチャビ

日本の「韓国学」、人文・社会科学分野の研究と教育の動向		
—国際高麗学会日本支部と関西地域の大学を中心に—	裴光雄	124
許南麒と七冊の日本語詩集	任正嫻	131

書評

金学鉄著・大村益夫編訳『たばこスープ』（金学鉄文学選集1—金学鉄短篇小説選）	宮島美花	139
木宮正史『日韓関係史』	朴一	142
李里花編著『朝鮮籍とは何か——トランスナショナルな視点から』	李洪章	147
許玉汝『羽が生えたように』	金正守	150
橋本みゆき編著、猿橋順子／高正子／柳蓮淑著		
『二世に聴く在日コリアンの生活文化—「継承」の語り』	伊地知紀子	152

学会報告

2021年度学会活動		154
投稿規定・執筆規定		157
編集後記		160

# 国際高麗学会日本支部

## 2021 年度

### 学会活動

## ●国際高麗学会日本支部 第 25 回学術大会

日 時：2021 年 5 月 30 日（日）10：00～17：00

会 場：オンライン

【午前の部】10:00～12:00

◎自由論題報告

1. 関智焄（立命館大学）「韓国政府の慰安婦問題への対応と日韓関係」
2. 今里基（立命館大学大学院）「在日コリアンの母国留学－ライフスタイル移住の視点から－」  
司会：全ウンフィ（大阪市立大学）
3. 高橋優子（広島女学院大学）「在日大韓基督教会の歴史に見る韓国人被爆者救援活動」
4. 山口祐香（九州大学）「「素晴らしくて楽しい」実践の模索－戦後日本における雑誌『日本のなかの朝鮮文化』の位置づけをめぐる研究可能性について」  
司会：孫片田晶さん（立命館大学）

◎第 15 回 理事会 5 月 29 日（土）16:00～17:00 オンライン開催

◎第 25 回 総会 12:30～13:00

【午後の部】13:00～17:00

シンポジウム「女が書く、女を書く－文学の中の在日朝鮮人女性」

〔パネリスト報告〕

「初期在日朝鮮人文学における女性表象 -1970 年以前の小説を中心に」 宋恵媛（大阪市立大学）

「戦後を生きる「オモニ」- 在日朝鮮人の母性表象の一断面」 鄭鎬碩（聖学院大学）

「金史良の日本語作品に描かれた朝鮮人女性」 高橋梓（一橋大学）

原佑介（金沢大学）「日本近代文学にあらわれた「不逞鮮人」と朝鮮人女性－田宮虎彦「朝鮮ダリヤ」と中西伊之助「不逞鮮人」を手がかりに－」

コメンテーター：浮場正親（名古屋大学）

洪ジョンウン（大阪市立大学）

岡崎享子（立命館大学）

司会：伊地知紀子（大阪市立大学）

## ●人文社会研究部会

### 第 99 回人文社会研究部会

日 時：2021 年 9 月 26 日（日）14:00 ～ 16:30

会 場：オンライン

タイトル：戦後日本における台湾人の歴史的自己省察

報告者：岡野（葉）翔太（大阪大学大学院）

コメント：権香淑（上智大学）

コーディネーター：石川亮太（立命館大学）

## ●科学技術研究部会

### 第 74 回科学技術研究部会

日 時：2021 年 6 月 26 日（土）16:00 ～

会 場：オンライン

報告者：金穂香（京都大学）

タイトル：光受容タンパク質 PYP のシグナル伝達機構：共通のタンパク質が示す多彩な光反応

### 第 75 回科学技術研究部会

日 時：2021 年 9 月 18 日（土）16:00 ～

会 場：オンライン

報告者：李太起（大阪市立大学）

タイトル：Layer-by-layer 法による CdTe ナノ粒子超格子の作製と新規光物性の解明

### 第 76 回科学技術研究部会

日 時：2022 年 2 月 19 日（土）16:00 ～

会 場：オンライン

報告者：白凜（独立行政法人日本学術振興会、一般社団法人在日コリアン美術作品保存協会）

タイトル：語られてこなかった美術史－1950 年代の在日朝鮮人美術史

## ●特別講演会

### 「文在寅政権の成果と課題—第 20 代大統領選挙を見据えて」

日 時：2021 年 12 月 11 日（土）14 時～

会 場：オンライン

講 師：文京洙（立命館大学）

コメントーター：金榮鎬（広島市立大学）

## 「在日コリアン研究 40 年を振り返る」

日 時：2022 年 3 月 26 日（土）16 時～

会 場：大阪駅前第 4 ビル 2302 会議室 + オンライン

講 師：朴一（大阪市立大学）

コメンテーター：金早雪（大阪商業大学）

### 1. 投稿資格

国際高麗学会日本支部は、学会誌『コリアン・スタディーズ』を年1回発行する。掲載される原稿は、朝鮮半島および朝鮮民族に関するあらゆる分野の学術的な論文、研究ノート、書評論文、キルチャビ、書評である。論文、研究ノートについては、国際高麗学会日本支部会員は自由に投稿できる。投稿については、寄稿規定並びに執筆規定を熟読すること。ただし、当該年度までの会費納入を要する。投稿論文は常時受け付ける。また、編集委員会で企画する特集については、非会員にも寄稿を依頼することがある。

### 2. 投稿条件

投稿される原稿は、未発表の書き下ろし作品のみとする。同一原稿を『コリアン・スタディーズ』以外に同時に投稿することはできない。

### 3. 審査

寄稿された原稿を掲載するか否かは、別途定める査読規定に基づいて編集委員会で審査の上決定する。

### 4. 使用言語

本文は日本語のみとし、注および参考文献に限り外国語を使用できる。要旨およびキーワードは日本語および英語とする。

### 5. 枚数

原稿枚数は400字詰め原稿用紙換算で50枚以内とし、本文（タイトル、氏名含む）、注、参考文献、図表を含めたものとする。論文には、日本語要旨、英語要旨およびキーワード（日本語および英語）を付けることとする。ただし、いずれも枚数には含まない。枚数を超過した場合、審査対象としないこともあるので、下記を確認すること。

論文 50枚以内+日本語要旨（400～800字）、英語要旨（800～1000語）+キーワード（日本語および英語）

研究ノート 50枚以内

キルチャビ 20枚以内

書評 5～15枚

### 6. 投稿形式

投稿は原則として電子文書とし、マイクロソフト・ワード形式かリッチテキスト形式で作成したものを投稿規定10にある提出先のe-mailアドレスに送付すること。図表や写真は可能な限り本文中に挿入すること。マイクロソフト・ワード形式かリッチテキスト形式以外での提出については、投稿規定10にある問い合わせ先に連絡すること。必要に応じて印刷された原稿の郵送を求めることがある。

### 7. 抜き刷り

本誌は国際高麗学会日本支部会員には1部ずつ、論文、研究ノート各1本につき1部配布する。抜き刷りをご希望の場合は別途有料となるので、投稿の際に申し添えること。問い合わせについては10を参照のこと。

### 8. 校正

校正は原則として著者校正のみで、内容のみならず、投稿規定および執筆規定に則った形式に訂正することも校正作業に含まれる。審査により採用決定となった後に行われる初校段階での誤植以外の修正は原則として認めない。なお、再校は初校段階の訂正を確認するだけの作業となる。

### 9. 原稿の保管

投稿原稿の保管や取り扱いについては編集委員会が責任を負う。

## 10. 提出先および問い合わせ

投稿原稿は下記宛に提出すること。

国際高麗学会 日本支部事務局

〒530-0047 大阪市北区西天満4丁目5-5 マーキス梅田 506号

tel 06-6314-3775 fax 06-7660-7980

isksj@ams.odn.ne.jp http://www.isks.org/

投稿などに関する問い合わせは、上記住所の支部事務局をお願いします。

## 11. 著作権

投稿された原稿の著作権は国際高麗学会日本支部に所属するが、原著者が『コリアン・スタディーズ』に掲載された当該論文を自著作の単行本や論文集に再掲載することは妨げない。

(2014年6月30日)

## 国際高麗学会日本支部学会誌『コリアン・スタディーズ』執筆規定

2020年6月19日一部改訂

### 1. 本文

#### (1) 基本用語

- a. 原稿は日本語、横書きとする。図表や図版は原稿本文に組み込み、紙幅の制限内に含める。
- b. 朝鮮、中国に関わる人名・地名は漢字（日本の現代漢字も可）で表記し、漢字不明の場合はカタカナ表記とする。欧米由来の度量衡はカタカナ表記とする。

#### (2) 数字

- a. 数字はアラビア表記を原則とし、場合に応じて漢数詞を用いる。
- b. 年号は西暦を用い、国家・地域固有の年号を使用する際は西暦を（ ）で付記する。

#### (3) 見出し

- a. 章はアラビア数字で1、2、3…と表す。「はじめに」と「おわりに」（あるいはそれ等に該当する見出し）にも数字を振る。「はじめに」は1とする。
- b. 章以下の節は（1）、（2）、（3）の順で表す。
- c. 節以下の項はa、b、cの順で表す。

（例）第1章⇒1、第1節⇒（1）、第1項⇒a

### 2. キーワード

論文、研究ノートには日英5語以内でキーワードを付けること。キーワード間は読点ではなくコンマを入れること。

### 3. 文献引用

(1) 本文や注、図表で文献を表記する際は、編著者の姓（刊行年：ページ）のみ表記し、文献の詳細は参照文献リストに表示する。朝鮮人の名は姓名とも表記する。編著者名が付いていない刊行物の場合は、発行機関名を表記する。

（例）文献全体を示す場合

鈴木 [2005]、朴統一 [2011] によれば・・・

文献の一部を示す場合

…投票率は低かったとされる [キムハヌル 2012: 11-13]。

(2) 2度目以降の引用でも前掲書・前掲論文、同上書・同上論文などの用語は使用せず、上記（1）のように

表記する。

(3) 新聞・雑誌記事や社説の場合は本文・注・図表に新聞・雑誌名、発行年月日を記した上で、参考文献リストに新聞・雑誌名を入れる。

(例)

…保守言論による歪曲は深刻である [『月刊朝中東』2001年1月]。

…と指導者は発言している [『労働新聞』2012年4月16日]。

#### 4. 注

(1) 注は、本文の内容について文脈上の解説や言及をする必要がある場合に用いる。

(2) すべて文末注とし、片カッコ付アラビア数字で表示する。

(例) 1)、2)、3)・・・

#### 5. 図表

(1) 図表のタイトルは、図の場合は図の下に、表の場合は表の上に付ける。

(2) 刷り上がり 1/2 ページ大の場合は 500 字分、刷り上がり 1/4 ページ大の場合は 250 字分として換算する。

#### 6. 参考文献

(1) 本文、注記、図表で用いたすべての文献を「参考文献」として本文の最後に一括して表示する。参考文献とは、本文中または注において引用した文献を指す。

(2) 文献リストは言語ごとに分け、日本語文献は著者名の 50 音順、韓国・朝鮮語文献は著者名のカナダラ順などに並べる。

(3) 参考文献については、著者名・(刊行年)・書名・号数(発行年月日を入れてもよい)・発行所・頁等を示す。筆者名のある新聞・雑誌記事は雑誌論文と同様に表記し、発行年月日も記入する。

(4) 英文文献の場合、書名はイタリックで表記する。論文名は単行本所収か雑誌所収かに関わらず一律クォーテーション・マークで括る。

(例)

単行本の場合

・朴一(2005)『朝鮮半島を見る眼－「親日と反日」「親米と反米」の構図』藤原書店、pp.123－125

・이광우(2004)『신경과학』범문사, pp.153.

・Kim, L. (1997). *Imitation to Innovation: The Dynamics of Korea's Technological Learning*. Boston: Harvard Business School Press.

論文の場合

・文京洙(2005)「戦後60年と在日朝鮮人“国民”の呪縛を超えて」『思想』No.980、岩波書店、pp.8－9

・김신일(1991)「교육자치의 당위성과 현실」『교육학연구』Vol21, 교육출판, pp. 11－18.

・Min, Pyong Gap. (2001). “Koreans in New York: An ‘Institutionally Complete’ Community.” *New Immigrants in New York*, edited by Nancy Foner, New York: Columbia University Press, pp.173-200.

・Koh, Y.S. (2008). “Financial and Corporate Reform in Korea: Survival Strategies of the Korean “Chaebols””, *Asian Studies*, 54 (2), pp.71-88.

#### 7. 論文タイトル

日本語および英語でつけること。

## 編集後記

『コリアン・スタディーズ』の今号は、学術大会でのシンポジウムを特集に組みました。あわせて、投稿論文、研究ノート、寄稿、キルチャビなど、コリア、コリアンに関するきわめてバラエティに富む充実した内容になったのではないのでしょうか。

さて、『コリアン・スタディーズ』の発刊が10号を迎えました。創刊号の編集後記には、「誌名『コリアン・スタディーズ』には文字通りコリアとコリアンに関わるすべての研究を網羅する意図が込められている」とあります。ところで、しめきりとは破られるためにあるのかどうか、なかなか期限どおりに原稿が集まらないのが編集の悩みです（ほかの雑誌も同じだと思いますが）。とはいえ、集まった原稿はすべてが充実した内容ばかりで、まさしく、「コリアとコリアンに関するすべての研究を網羅」しているといえ、それらを編む役割にあることにあらためて身を引き締める思いです。2013年の創刊以来、ご執筆ならびに編集などにご協力いただいたみなさんにあらためてお礼申し上げます。

『コリアン・スタディーズ』11号の投稿締め切りは9月末日の予定です。多くの投稿をお待ちしております。

(鄭栄鎮)

『コリアン・スタディーズ』編集委員  
鄭栄鎮（編集委員長）  
文京洙  
高正子  
朴一  
鄭雅英  
蔡徳七  
裴光雄  
伊地知紀子  
森類臣  
全ウンフィ  
洪ジョンウン  
岡崎享子  
金友子  
孫片田晶

# コリアン・スタディーズ

## 第 10 号

Korean Studies No.10

---

頒価 1,000 円

2022 年 6 月 1 日 発行

編集・発行団体 国際高麗学会日本支部

〒 530-0047

大阪市北区西天満 4 丁目 5-5

マーキス梅田 506 号

TEL 06-6314-3775

FAX 06-7660-7980

E-mail [isksj@isks.org](mailto:isksj@isks.org)

発行者 国際高麗学会日本支部会長 鄭雅英

編集代表者 鄭榮鎮

装丁 金文男

制作 株式会社 田中プリント

Korean Studies  
Vol.10 2022

Feature Articles : Women Write, Women Are Written; Zainichi Korean Women in Literature

Foreword : What to write, what to be written. .... IJICHI Noriko

Representing Zainichi Korean Women:

An Analysis of Novels by Male Compatriot Writers before the 1970s ..... Hyewon Song

Reading 'Omoni': The Postwar Trajectory of Ethnic Korean Mother in Japan ..... Hoseok JEONG

Representations of Korean women in the Japanese-language works of Kim Saryang  
..... TAKAHASHI Azusa

"Futei Senjin" and Korean Women in Modern Japanese Literature:

Focusing on Nakanishi Inosuke's "Futei Senjin" and Tamiya Torahiko's "Chosun Dahlia"

..... Hara Yusuke

Articles

The Film "Korean Envoys in the Edo Period" and the Screening Movement

in the History of Citizen Movements in Japan in the 1970-80's ..... Yuka YAMAGUCHI

The Literary Resistance and Korean Awareness of Tomoji Abe in the 1930s:

Study on 'Fuyu no Yado' ..... Hirose Yoichi

Notes on Research

Life and Events of Koreans in Yao: Focusing on the Period Before 1945 ..... CHUNG Youngjin

The Succession and Significance of "Ethnic Dance" within the Korean Residents in Japan

-Through Interviews with the Leader of the Joseon School's Ethnic Dance Club-

..... SUH HEE YOUNG

Contribution

The Causes of the Feud between Korea and Japan

—Investigating The Legitimacy of the Republic of Korea— ..... Seo Jeong-Gun

Kilchabi (Compass)

"Korean studies" in Japan, Trends in research and education in the fields  
of humanities/social sciences - Focusing on International Society

for Korean Studies Japan Branch and universities in the Kansai region - ..... Kwang Woong Bae

On Poetical Works of HO Namgi ..... IM Jong Hyok

Book Review

Tobacco Soup Translated by OOMURA Masuo ..... MIYAJIMA Mika

History of Japan-Korea Relations by KIMIYA Tadashi ..... PARK II

Stateless "Chosenseki" Zainichi Koreans in Japan: From Transnational Perspective

by Rika Lee (ed.) ..... LEE Hong Jang

Growing Wings by Ho Ok Yeo ..... Kim Jong Su

The Narratives of the Second Generation *Zainichi* Koreans about "Inheriting"

the Culture of Life by Hashimoto Miyuki / Saruhashi Junko / Koh jeongja / Yonsuk Yu

..... IJICHI Noriko

Published by the Japan Branch of International Society for Korean Studies

4-5-5-506, Nishitenma, Kita-ku, Osaka, Japan